

バスケットボールを通じて、地域で孤立しがちな
ブラジル人の子どもたちを励ましたい。



◀個性を大切にしているという波多野選手。以前は髪型をアフロにしていたという。「外見だけで人を判断して文句を言われても、気にしないですね」。コートの中は自分を一番表現できる場所だとか。

滋賀レイクスターズ **波多野 和也**さん

■波多野選手は小学3年生のとき日本に来られたそうですね。その当時、日本語を話すことはできたのですか？

そのときは日本語はまったく分かりませんでした。でも転入した小学校にブラジル人児童がいて、私はその子と一緒に国語や算数の授業の間、別の教室で日本語の授業を受けていました。4年生ぐらいになると、普通に日本語を話せるようになりましたね。

■日本の学校にはすぐ慣れましたか？

やはり初めてなのでなかなか慣れなかったですね。最初の1年間は言葉も理解できなかったの、授業の途中で「もう終わったのかな」と思って帰ろうとしたこともありました。給食にも戸惑いましたね。ブラジルではお昼はそれぞれ自分の家に帰って食べていたのですが、日

●プロフィール●

本名は、『ジェームス 和也 ラモス 波多野』。1982年、日本人の父とブラジル人の母の間に生まれる。小学3年生までブラジルで過ごした後、父親の仕事のために家族で日本に移住。中学校のクラブ活動でバスケットボールに出会う。2000年、高校インターハイに出場しベスト8、ジュニア日本代表に選出される。進学した専修大学でも活躍を続け、2年連続で優秀選手賞を受賞。2005年、日本初のプロバスケットボールリーグbjリーグの大阪エヴェッサに入団。スターティングメンバーとして活躍し大阪エヴェッサの3連覇に貢献した。2011年、滋賀レイクスターズに移籍。ポジションはフォワード。身長／体重 192cm／97kg

本食があまり好きでなかったこともあって、とても辛い時間でした。でも、担任の先生がポルトガル語の辞書を開きながらいろいろと説明してくれて、だんだん慣れていきました。

■バスケットボールを始めたきっかけは？

中学校に進学すると絶対何か部活に入らないといけないでしょう。それでいろんな部活を見て回って、一番楽しそうなのがバスケ部だったんです。ただ、最初はボールにはほとんど触らせてもらえず、筋トレばかりで面白くなかったの、辞めようと思ったくらいです。でもある時、急に呼ばれて試合に出してもらって、コートを一往復ただけで交替だったのですが、その時間がすごく楽しかったんです。それで「もっとちゃんと練習して試合に出たい」と思うようになりました。

■いつごろからプロの選手を目指していたのですか？

実は大学4年までプロになるとは思っていませんでした。3年生のとき一度渡米して、プロリーグのトライアウトを受けたことがあるんです。あわよくばアメリカでプレイできればと思ったのですが、まったく通用しませんでした。でもその時の経験がすごく楽しかったの、大学を卒業したらもう一度チャレンジしよう、それでダメだったらバスケットボールは辞めようと思ったんです。そんな時大学の先生から、日本にもプロリーグが出来るからトライアウトを受けてみたら、と薦められたのがきっかけで、プロ選手になりました。

■プロとしてプレイして、嬉しかったことはありますか？

大阪エヴェッサでプレイしていたときですが、試合が終わるとファンが体育館の入り口で選手が出てくる

のを待っていてくれるんです。そのときに、ポルトガル語で話しかけられのにはびっくりしました。ファンの中にブラジルの方がいたんですね。「応援しているからがんばってください」と言ってくれたのですが、それはやっぱり嬉しかったですね。

■今シーズンから、滋賀レイクスターズに移籍されましたが、滋賀の印象はいかがですか？

すごい田舎だと聞いていたのですが、思っていたよりきれいなところで、そんなに田舎でもないと思いました。滋賀のファンはかなり熱い応援をしてくれていますので、滋賀の皆さんの前でプレイできるのを楽しみにしています。

■バスケットボールで、これからの目標は？

日本はバスケットボールの競技人口は多いのですが、なかなかメジャーにならないんです。ですから、もっとバスケットボールを普及させていきたいですね。そのために、まず自分のプレイを通して、私に興味を持ってくれるところから始めたいと思っています。

また、私が来日した頃はまだブラジル人は少なかったのが歓迎ムードがありました。今は両親は仕事、学校では日本語が話せないために友だちが出来ないという状況で孤立しているブラジル人の子どもが多いでしょう。バスケットを通して、そんな子どもたちを少しでも減らすために貢献したいと思っています。

